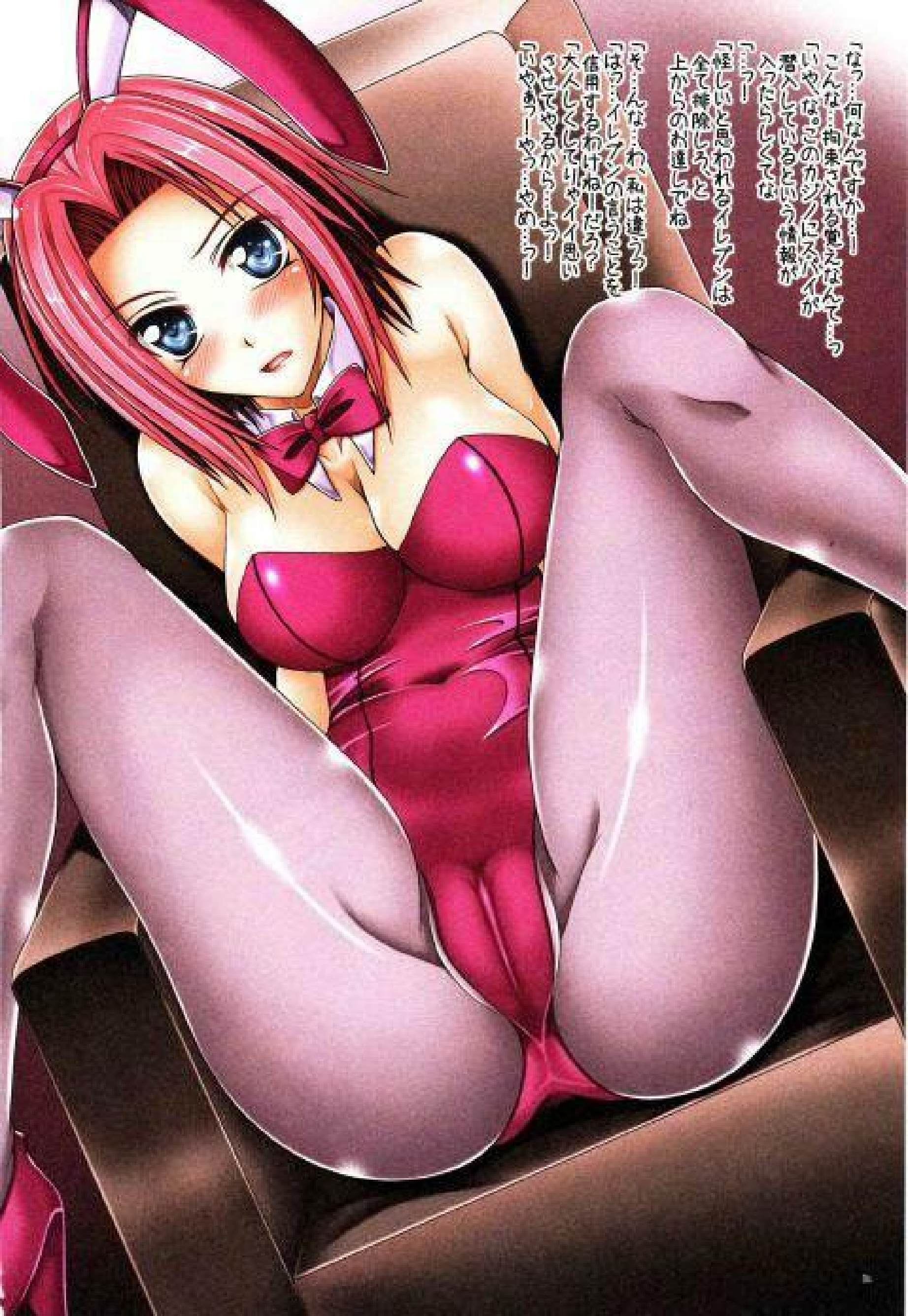

からふる
ぎあちゅぎあちゅ!
★For Adult Only★


「なっ…何なんですか…！
こんな…拘束される覚えなんてっ
「いやな。このカジノにスパイが
潜入しているという情報が
入ったらしくてな
「…っ！
「怪しいと思われるイレブンは
全て排除しろ、と
上からのお達しでね
「そ…んな…わ、私は違うっ！
「はっ…イレブンの言うことを
信用するわけねーだろっ？
「大人しくしてりゃイイ思い
させてやるから…よっ！
「いやぁっ！やっ…やめ…っ！


「いやぁあぁあっ！
「おらそっちもさっさと開けよ
「わーってるって…でもってコレも…っと
「んっ…ぐっ…？
…がっ…あっ…何…飲ませ…っ
「女は全て薬漬けにして
調教することになってるんでな
「な…何を…言って…
「こいつはー、即効性のよーくきく奴
だからすぐに頭ン中飛ぶぜ？

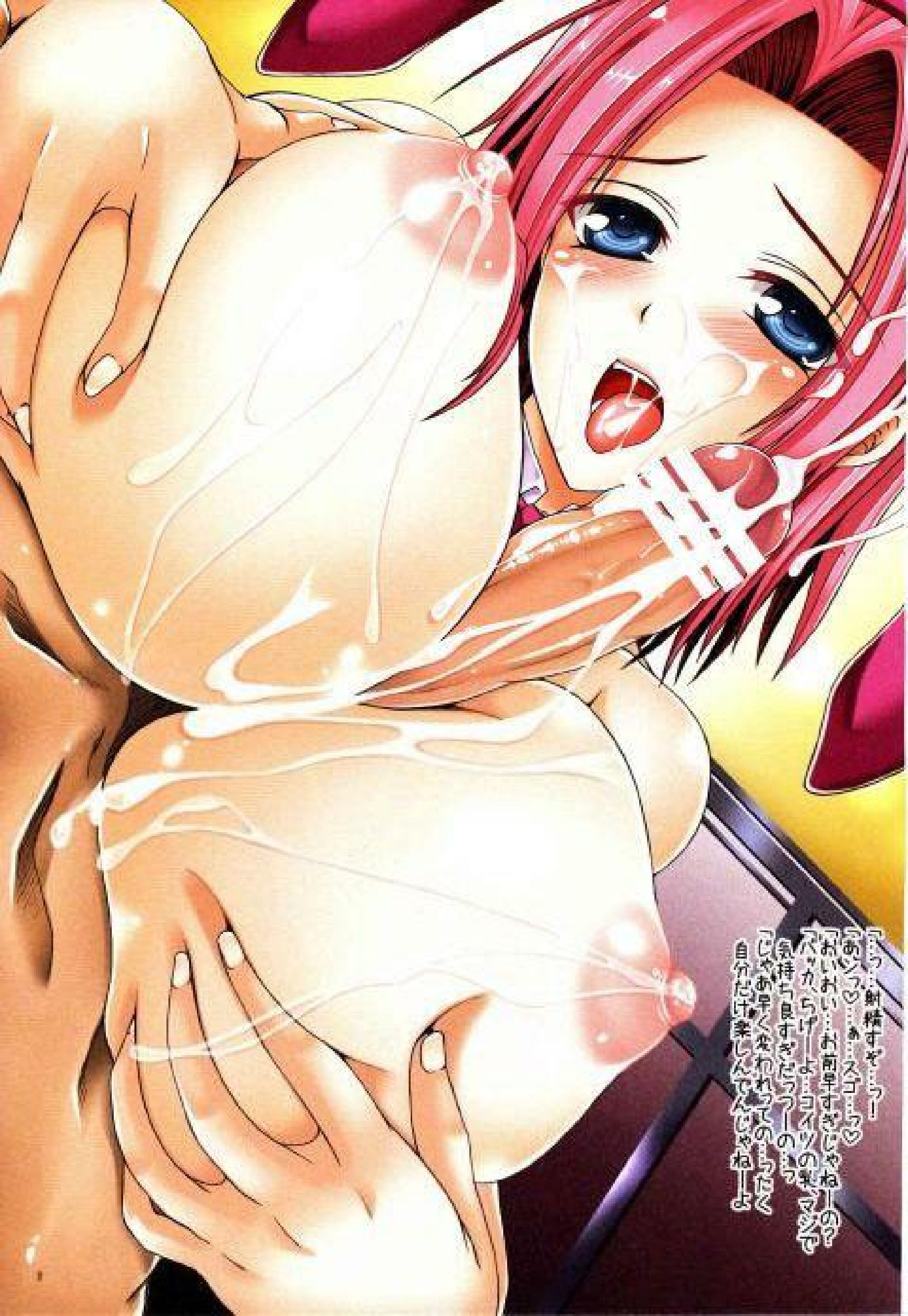

「ほら、舐めろよ…っ
「んん…っーふぁ…やあっ…―！
「何だぁ？まだ薬効いてないのかよ…抵抗してもいーコトないんだからさぁ
「はっ…あ…ンっ
「そうそう、舌使って…っ素直が一番…ってな？


「ほら 次は奥まで咥えろよ…っ
おお…スゲェ…気持ちイイっ
「んん――っーん…ぷ…っん…んっー
「オイオイ そんな激しく吸っ込んだら
すぐ壊れちまうだろ？ 加減しろよ
「だいじょーぶだ…って！
「つか コイツの口スゲェイイぜ…っ？
「マジで？まぁ お楽しみは
これからなんだからよ…
たっぷり楽しませて貰おうぜ


「それにしてもアクエ気だなこの女…
これならコッチでも楽しめそうだぜ
「くぅ…んっ…♡
「おっ？感じてんのか？やっと薬が
効いてきたみたいだな
「んっ…♡…ふ…ぅ…ぅん♡」
「コイツにも乱れて貰わねーと
俺らも楽しくねぇからなぁ…
ほら もっと感じても良いんだぜ？
「んぁっ♡…や…ダメ…胸、は…ぁっ♡


「やっ…らめぇっ…でちゃうぅ…っ♡
…っあああぁ…っ♡
「うおっ…コイツ乳噴きやがった
「スゲぇな、おい…感じまくってんじゃん
これなら色々楽しめそうだな
「あ…あ…ふあぁ…っ♡


「じゃあ…そのエロ乳で
パイズリして貰おうか
「あ…はぁ…っ♡
「うっわ、たまらっけぇ…やっべぇコレ…っ
おら…もっと揉んで扱けよっ
「んんっ…♡は…っあん…♡


「うっ…射精すぞ…っ！
「あンっ♡…ぁ…スゴ…っ♡
「おいおい…お前早すぎじゃねーの？
「バッか、ちげーよ…コイツの乳マジで
気持ち良すぎだっつーの…っ
「じゃあ早く変われってーの…ったく
自分だけ楽しんでんじゃねーよ







びくんっ

「コラ 何勝手にオナってんだよ
そんなにしたけりゃ手伝ってやるって
「あっ♡あっ♡あぁう♡
「あーもうドロドロになってるし
スゲェ汁、溢れまくり
「ひぁ…っ♡も、もっとぉ…っ
もっと掻き回し…て…ぇっ♡


「つーか指なんかじゃ足りねえだろ？
もっとぶっとくて硬いのが
欲しいんじゃねーの？
「ほら　そのトロトロに開ききった
エロまんこにちんぽ挿れてやるから
…欲しいって言えよ」
「あ…っ♡欲し……いですぅ…っ♡
ぶっといおちんちん…挿れて…♡」

「お…すげ、キツッ…絡み付いてっ
つかコイツ…処女っぽいぜっ
マジかよっ…薬効いてるとはいえ
処女でこんなに淫乱なんてスケベじゃん
うあ…ンーヤベ…マジ止まんねぇ…ー
あっ♡あ…っ♡スゴっいのおっ♡
ナカで擦れてっ…っ気持ちイイーっ♡




「こりゃすげェエロい眺めだなオイ
まんこからザーメン溢れまくってやがる
「お…おおう ケツ穴も締まるぜコイツ…っ」
「おら 口開けろよっ」
「ふあぁ…っ♡あ！…♡もっと…おっ…♡」
「まだまだイケそうだな…ほら こっちも
「んっ♡…あ…は…♡


「すっげぇザーメンまみれで
もうどろどろだな…まだ使えるか？
「あーもう完全にイっちまってるんじゃね？
「ま、玩具だし…壊れてても使えるだろ
「あ…はっ♡もっと…せーしかけてっ♡
こっちも…おまんこも早く犯してぇ…っ♡


「…っ…こんな方法で私を征服出来ると思ってるっ」
「嫌だなぁ先生…別に征服しようだなんて思っていませんよ」
「あ…っ」


ぐにゅ


くちゅ
「俺はただ、貴女の躰を弄んでいるだけだ」
「な…っあ♡」
「…もう拒めないとわかっているでしょう？」
とろっ


「もともとそういう躰なのかそれとも…生徒にこんな事をされて興奮しているとか？」
「な…にをバカな…っ」
「んん…っ♡」
「…随分と感度が良いんですね、先生…こんなに乳首を立たせて」


「良いじゃないですか…このまま快楽に身をまかせてしまえば」
「っは…あぁ…っ」
（ダメだ…っ…このままでは本当にコイツの良い様にされてしまう…っ）


「く…っ…それなら… いっその事…っ」
「る…ルルーシュ…」
「く…私から誘って主導権を握ってやる…っ」
「こうしましたら先生」
「っ…胸よりもコッチの方が良いんじゃないのか…っ? どうせ…するつもりだろう?」
くちゅ
「へぇ…随分アッサリと堕ちてくれるんですね…」
「…というよりも…コレが欲しくなったんじゃないですか?」
「…っ…ち、ちが…っ」
「違わないでしょう こんなに濡らしているんですから…お望み通り挿れてあげますよ」
「…っあー」
ずぷっ
「や…っあ…そんな…イキナリ激しくっ」
「こうして欲しかったんじゃないんですか?」
「…イイ顔してますよ、先生…」
「あっ♡…そんな…事…っ」
ぱんっ
ぱちゅ
ぱちゅっ
「く…欲しがっていたんだろう? そんな…そんなわけ…ない…だろう…っ」


「ほら、ルルーシュ…今度は
後から挿れても良いぞ…っ
「違うでしょう、先生…
『後から挿れて犯して下さい』
って…懇願して下さいよ
「…なっ!?
「貴女は拒めないはず……
…ですよね?先生」
「ルルーシュ…貴様…っ
「…さぁ…言え、ヴィレッタ・ヌウ
「っ…う…後から…挿れて…
犯して…下さい…っ
ムリッ
とろ


「あっ…や…あぁっ♡
「拒めないとは言え、自分から
ねだるなんて…相当淫乱な
女性だったんですね、貴女は
「ひっ…あぁっ♡…いやっ…
「嫌だと言いながら…自らも
腰を振って…いやらしい女性だ
〈違うっ…っ！私はっ…私が
主導権を握って…コイツを…っ
じゅぷっ
じゅぷっ


びくんっ
「…こちらはどうです？
「ひっ……！？やあっ！何を…っ
「っ…膣内が締まって
具合が良い…こちらでも
感じるんですね、先生
「か、か…んじる、わけ…っ
…っあ！ああああっ♡
ぐりっ


「あーっ♡ふ…あーっ」
「…どうしましたか？先生…
随分大人しくなりましたね」
「ルルー…シュっ…
も…止め…っ」
「でも感じているんでしょう？
さっきからイきっぱなしじゃ
ないですか」
「う…あーっ♡あっ…♡」
「ほら、また…
膣内が締まって…絡みつく…っ」
ずん
ずん
ずん
ずっ


「…射精しますよ、先生」
「あっ…あっ…あっ…♡
また…ナカに…っ
ナカに…出されてっ…っ」
「ああ、またイキましたね？
…中に出されてイクなんて
本当に貴女はいやらしい人だ
ヴィレッタ先生…」
「ダメ…だっ…こんな…
気持ち…イイ…っ♡」

「あ…凄い…こんなにたくさん…
「先生…もう抵抗しないんですね
…自らを曝け出してまで俺を
懐柔しようとしていたのに…
…残念だったな

「…っ…あ…
「でもこれで貴女はこちら側の
人間だ…これからも宜しく
お願いしますよ…先生

〈私…は…これで…
貴方と幸せに…

「で、どう？どんな感じ？
「ん…大丈夫…
ちょっと、気持ちイイ
「へぇ…庶民のオモチャだって
言うからどうかと思ったけど…
結構使えるんだな

「ぅ…シブ…
あまり強くしないで
「ん？どうしてさ…
気持ちイイんだろ？
「そう…だけど…何か…
おしり…ヘンなの…
「あー…それは
感じてるって事だよ
「…そう…なの…？

「うわ、もうトロトロだな
アーニャのココ」
「…や…見ちゃダメ…」
「あれ？…恥ずかしいのか？」
「…わかんない、けど
ヤ、なの…」

ヴヴヴヴヴ

「ふうん…まぁ、イイけど。
大分柔らかくなったみたい
だし…俺のも挿入るだろう
…良いよな？」
「…ん…」

「あ…っ
「う…やっぱちょっとキツイな…っ
もう少し力抜けるか？
「わ…わかん、な…っ
「ゆっくり息吐いて…っ…そうそう…
…お…全部挿入った…動くぞ？
「…あ…っ…やぁ…っ！あ…っ！

「ん…動きはスムーズなんだけどなぁ…痛いか？アーニャ…
「ううん…違う…ぞくぞくする…
ジンも…う…っ
「イキそうか？
「うん…イキ…そう…っ
「じゃあ、俺も。
…アーニャの中に出すぞ？
「ん…ふあっ…あ…っ！

「あ…っ
「ふう…大丈夫か？アーニャ
「ん…へーき
「そうかそうか！
んー、お尻でするのも
結構面白いなー♪

ごぽっ

「…ぬるぬるする
「あー…中からいっぱい
溢れてるからなぁ
…あ、掃除しとくからコレ
「うん
「ホント好きだねぇ…
そういうの
「…バカ


「あの…ホントに見せるだけで良いの…？
「あぁ…もう出るから…
「でも…恥ずかしいんだから、は、早く…してよね…っ
〈うわ…うわぁ…っ　どうしよう…これ…って…私で…興奮してくれてるってコト…なんだよね…？


「…っ…射精るよ…っ」
「きゃあ…っ！」
あっ…スゴい…熱い…っ
〈これが…ルルの…精液…なの？
凄くいっぱい出てる…
頭…おかしくなっちゃいそう…っ


「あは♡いっぱい出たね…
身体中どろどろ…だよ？
「…ごめん
「い、良いの――…ルルだから…
え…？
「な…何でもなーいっ
〈…ルルにだけ許してあげるんだから…ね？
ペロッ


「…ルルーシュ…お前、よっぽど溜まっていたんだな…
久しぶりだからってちょっと出しすぎだろう？
「お、お前こそあんなに乱れていたじゃないか…っ
「まぁ…お前が相手だからな
「……え？
「はぁ…少しは考えろ…バカ男
「なっ…
「まだするんだろう？ふふっ…今度はちゃんと私もイカせるんだぞ？
「っ…わかってるっ

初めましての方もおなじみの方もこんにちは、榴崎祐里です。コードギ○スR2フルカラー本第2弾です。
遂に始まりましたねR2！もう面白すぎて毎週楽しみで楽しみでなりません…！そして同時に続きが気になって気になって仕方ないです…あぁもどかしい…！と思いながら、日曜を待つ日々が続いております。こんな自分はスケベだなぁ。
現時点で[illegible]話まで話が進んでいる状態なのですが、何と言うかエロスとシリアスが混ざり合ってて色々な意味で楽しい作品に仕上がってますね！カレンがなによりカレン。ヴィレッタ先生の水着姿もぎりぎり[illegible]で素敵でした…！
さて今回の本ですが、カレンの話はイベント本「からぶるぎあちゅ」の再録です。読みたいのに読めない！というご意見をたくさん頂いたので…そのおかげで36Pという、オールカラー本にしては（自分的には）ページ数の多い本に出来ました。他キャラは全部新規マンガですが、カレン本に合わせてやや黒テックな仕上がりになるようにやってみました。その分ちゃんとした話になるようにはしてみたのですが…どうなんでしょう…。あ、アーニャは現時点でまだあまり登場してないので若干妄想入り気味ですが、ジノがアーニャを可愛がってたら良いなぁ、とか思ってます…こそり。あとヴィレッタ先生は扇さんと幸せになって欲しい！と思って…るはずなのに鬼畜なハメにやられてしまいました…あれ？やっぱり、はーじょくは楽しいなぁ（マテ）。あと裏表紙にいるのにCCの描き下ろしがなくてすいません…。これはまたいつかページ出来れば良いなぁ、と思います。Rはまだ全然描きたいですし！
それでは、ここまでお付き合いありがとうございました。次でもまたお会い出来ることを願いつつ～（^ω^）/。

2008.05 榴崎祐里。

:: からぶるぎあちゅぎあちゅ！ ::
2008.05.01★HAPPY WATER/榴崎祐里
連絡先★http://www2.to/happywater
[illegible]
印刷所★ねこのしっぽ様
= SPECIAL THANKS =
[illegible]


からふる
ぎおちゅぎおちゅ!
★For Adult Only★